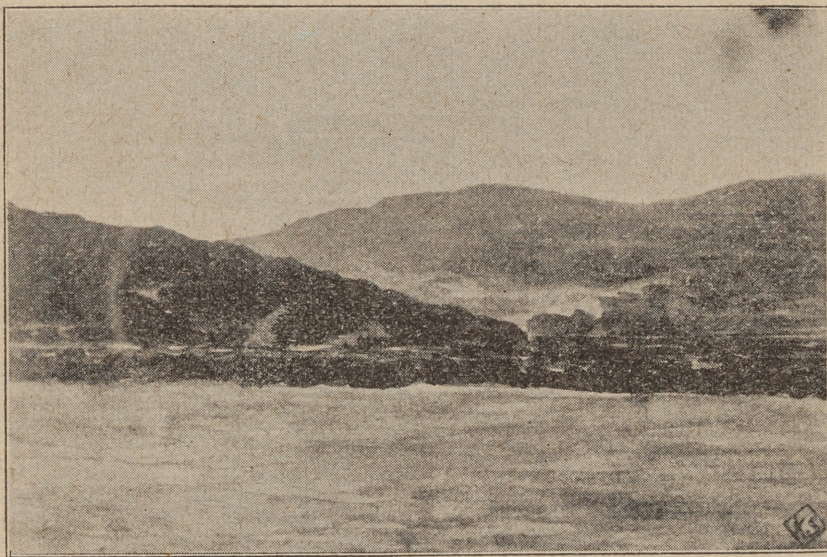


□鬼の首でもとつたやう

京都 ち、ゆ 生

私は未だこんな所へ頭を出す柄ではありませんが、併し横好といふ點に於ては敢て人後に落ちないつもりです。私が水彩畫を習つて見たいと思つたのは、餘程前の事でした。元來私は、非常に旅行好で、少しでも隙があつたら飛出して、山野を跋渉し、惠深き自然の神の恩澤に浴して居りますが、常々思ひますに、旅行中に目に觸れたい、景色や、珍らしいものを繪に畫いて、親しい友や、留守宅の家族に送つたら、樂みを自分一人ではしいまゝにしないで、之をうけた人たちはどんなに興味を感じてあらうといふ事でした。それには是非水彩畫でなくてはいけないと思ひましたが、悲い哉、田舎に住んで居ました自分は、師とする人もなく、何處からどう筆をつけていゝかさつぱり分りません。尤も中學校で毛筆畫の臨本模寫は習ひましたが、餘り役に立ちません。その中に新聞などにある挿畫を基礎として、スケッチの骨を得るに勉めました。散歩に出る時には必ずスケッチブックを懐にして、寫生にとめました。此頃は未だ墨繪の

みて繪具を用ゐる迄には至りませんでした。併しやつてる中に追々發明する所がありまして、人に見せてもハ、一彼處かなどいふなづ



初春 佐野 介

いて呉れる様になり、嬉しくて堪りません。或時、スケッチブックの中の一つを繪葉書と

し、これに水彩畫的に繪具を塗つて親しい友に送りました所、此間の繪葉書は色の調和が大變よかつたとほめて呉れました。もう嬉しくて鬼の首でもとつた氣に水繪の稽古にかゝりました。始めてから未だ日が淺いので甚だ幼稚であることはいふ迄ありませんが、やるに隨つて清い趣味を感じるこゝとが益々深く、不健全な樂みに耽つて居る人を見ると心から氣の毒で堪りません。

不肖晩霧は片田舎に「みつゑ」を友に暮し居る者なるが性來畫を好み拙きながら大膽にも繪端書交換を望みしに豈はからんや妹思んや來るわくく北は北海道より南は四國九州より集來る者數十枚の多きに達しぬ扱て御送り下されし諸君に御禮申上候拙きは宥し給へ尙「みつゑ」愛讀者諸君飽きずにドシくと送つて下さい拙きながら必ず返信致僕の住所は左の通りだ（千葉縣匝瑳郡福岡町笹井健）